

2 湯来地区の調査結果

調査結果は分類群ごとにまとめた。はじめに各分類群の現状の解明度や選定候補種の抽出作業，調査結果，選定結果，選定種のリスト，つぎに選定種ごとの分布と選定種の解説を記述している。

選定種の分布図は，昭和48年行政管理庁告示第143号「統計に用いる標準地域メッシュ及び標準メッシュコード」の「標準メッシュ・システム」における3次メッシュが特定できる場合のみ，確認地点が含まれる3次メッシュが塗りつぶされている。

このため，詳細な確認情報であっても3次メッシュに特定できない情報の場合は表示していない。また，現存と絶滅の区別はできないため，現在はみられなくなった場合も表示している。したがって，絶滅とされた種の分布図で示している点は過去に記録された産地の情報である。

(1) 種子植物

旧湯来町内で生育が記録されているもの及び今回の調査で新たに生育を確認した種子植物は、およそ1,300種であった。ただし、明らかに植栽された園芸用植物、あるいは国内の分布域から推して誤認の可能性が高い種または分類が難しい種でありながら標本を確認することができなかつた種があり、これらを除いて1,109種(亜種, 変種, 品種を含む)の生育を確認した。特筆すべきものとしては、コウヤマキ, トウゴクサバノオ, マネキグサ, マツムシソウ, ウエマツソウ, サルメンエビネ, キンセイランなどがある。これらのうち, 93種は旧湯来町を除く広島市では確認されていなかった種で, このたび新たに広島市のフロラに加わったものである。

次に, 旧湯来町を加えた広島市に生育する種子植物を, 選定基準に従って絶滅危惧種など(環境指標種, 自然誌構成種を含む)に選定する作業を行なった結果, 新規の24種を含む合計122種を選定した(表8の107種及び自然誌構成種15種)。この中で, コウヤマキ, ノハナショウブ, クマガイソウなど11種は, 主に市域での生育状況の解明度が変わったため, カテゴリを変更した。

前回の調査以降, 市域で新たに生育が確認された種としては, ヒメフタバランがある。本種は, 葉を2個だけつける小型の地生ランで, 中間温帯域の常緑樹林内に生え, 早春に開花する。県内西部の島と北東部の1か所で現在生育が確認されている。北西部の1か所, 旧湯来町内, 東部の島で古い記録があるが, 現状は不明である。今回新たに発見された場所は岩壁の下を流れる小溪流に沿ったところで, 生育個体数は比較的多いが地形的な生育基盤は脆弱であり, 趣味園芸などの対象となって採取される危険性も高いことから絶滅危惧に選定した。

前回選定しなかったマルミノヤマゴボウは, もともと生育数の少ない希少種であり, 近年の自生情報が途絶えているなど絶滅の危険性が増大していると考えられることから準絶滅危惧とした。

種子植物の現地調査には, 植物研究家の武内一恵氏, 富澤由美子氏, 三上幸三氏, 和田正寛他の方々の協力を得ました。また, 標本調査については広島県立庄原格致高校 浜田展也氏の協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

湯来地区の調査による選定種の追加

マツムシソウ 絶滅
ウエマツソウ 絶滅危惧
ヒメフタバラン 絶滅危惧
ヒメノヤガラ 絶滅危惧
ヨウラクラン 絶滅危惧
キンセイラン 絶滅危惧
サルメンエビネ 絶滅危惧

マツラン 絶滅危惧
トウゴクサバノオ 絶滅危惧
オオヤマサギソウ 準絶滅危惧
ムヨウラン 準絶滅危惧
マルミノヤマゴボウ 準絶滅危惧
テツカエデ 準絶滅危惧
コハクウンボク 準絶滅危惧
ジャコウソウ 準絶滅危惧
マネキグサ 準絶滅危惧
キヨスミウツボ 準絶滅危惧
シロバナイナモリソウ 準絶滅危惧
カワラハハコ 準絶滅危惧
サンベサワアザミ 軽度懸念
エンレイソウ 環境指標種
タカネマンネングサ 環境指標種
コミネカエデ 環境指標種
オウギカズラ 環境指標種

湯来地区の調査による選定種のカテゴリ変更

クマガイソウ 絶滅危惧←情報不足
変更理由：解明度が向上したため
ムギラン 絶滅危惧←情報不足
変更理由：解明度が向上したため
オキナグサ 絶滅危惧←情報不足
変更理由：解明度が向上したため
ホンシャクナゲ 絶滅危惧←準絶滅危惧
変更理由：減少が著しいため
ノハナショウブ 準絶滅危惧←自然誌構成種
変更理由：自生地が少ないため
キンラン 準絶滅危惧←情報不足
変更理由：解明度が向上したため
ヤマヒョウタンボク 準絶滅危惧←軽度懸念
変更理由：生育基盤が脆弱であるため
コウヤマキ 環境指標種←情報不足
変更理由：解明度が向上したため
ブナ 環境指標種←自然誌構成種

変更理由：本格的なブナ林が市域に含まれたため
イヌブナ 環境指標種←自然誌構成種

変更理由：イヌブナが構成種となる特異な環境を含むことになったため

湯来地区の調査で確認された選定種（カテゴリ変更なし）

ハナナズナ 絶滅
オモゴウテンナンショウ 絶滅危惧[△]
ホソバナコバイモ 絶滅危惧[△]
ウチョウラン 絶滅危惧[△]
ヒナラン 絶滅危惧[△]
ヤマシャクヤク 絶滅危惧[△]
フジバカマ 絶滅危惧[△]
キバナノアマナ 準絶滅危惧[△]
カタクリ 準絶滅危惧[△]
エビネ 準絶滅危惧[△]
ナツエビネ 準絶滅危惧[△]
セッコク 準絶滅危惧[△]
マメヅタラン 準絶滅危惧[△]
ユキヤナギ 準絶滅危惧[△]
ツゲ 準絶滅危惧[△]
ナツアサドリ 準絶滅危惧[△]
ゲンカイツツジ 準絶滅危惧[△]
ナガミノツルキケマン 軽度懸念
アテツマンサク 軽度懸念
キキョウ 軽度懸念
ヌマガヤ 環境指標種
セトウチウンゼンツツジ 環境指標種
キシツツジ 環境指標種

種子植物

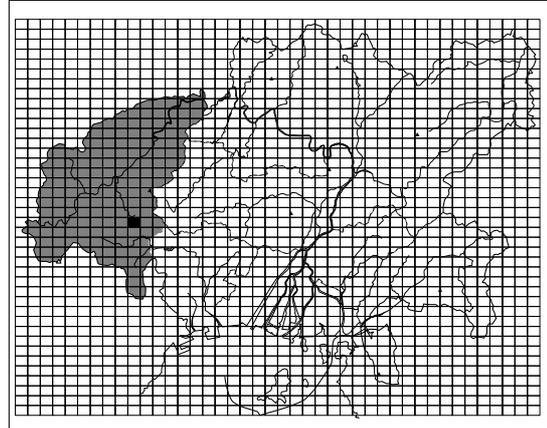
絶滅・絶滅

10年～20年間確認されていない(種子植物では30年以上)

■ マツムシソウ (マツムシソウ科)

Scabiosa japonica

山地の草原に生える越年草。高さ60～90cmの茎を出し、淡青紫色の頭花をつける。北海道、本州、四国、九州に分布。広島県内では中国山地の高所に生育する。佐伯区湯来町の伏谷地区大森、和田地区恵下などで戦前に採取されたがその後の記録が無く、絶滅したと考えられる。



種子植物

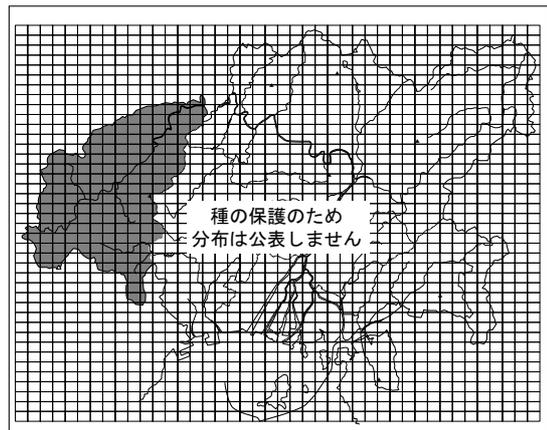
広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ ウエマツソウ (ホンゴウソウ科)

Sciaphila tosaensis

高さが10cmにみえない腐生植物で、本州(中部地方以西)から沖縄、小笠原にかけて分布しているが、その生育地は全国的にごくわずかしか知られておらず、きわめて希少な植物である。1993年に広島市植物公園のスタッフによって発見された。



種子植物

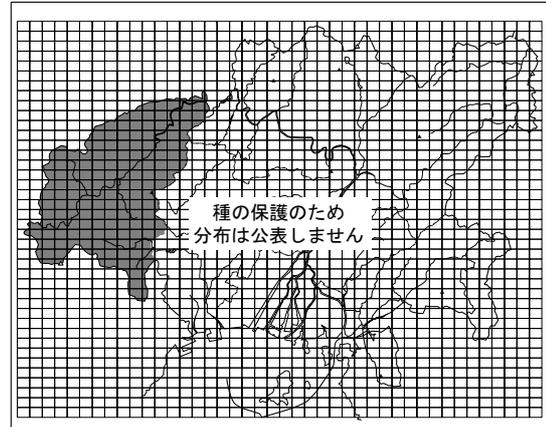
広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ヒメフタバラン（ラン科）

Listera japonica

本州（東北南部以南）、四国、九州、沖縄に分布し、県内では、モミ、ツガ、ウラジロガシなどからなる常緑樹林下にある。茎の高さは 5～30cm、中間に三角形の葉を2個つける。花は暗紫褐色で長い唇弁を持ち、茎の上部に数個が穂状につく。



種子植物

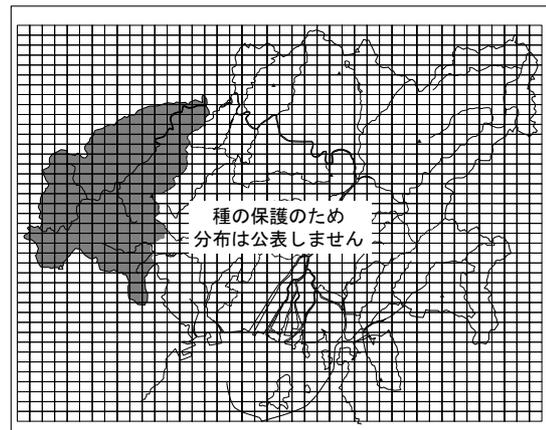
広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ヒメノヤガラ（ラン科）

Hetaeria sikokiana

中間温帯林下にはえる小型の多年草で、葉緑体を持たない腐生植物。本州、四国、九州に分布する。広島県内では中国山地沿いに点々と自生が確認されている。佐伯区の自生地は最も沿岸部に近い産地となる。発生数は少なく、目立たないので登山道整備などの作業には注意が必要。



種子植物

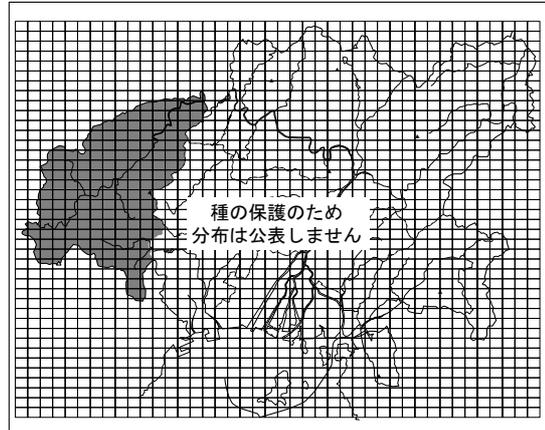
広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ヨウラクラン（ラン科）

Oberonia japonica

空中湿度の高い山地の樹林中で、樹上に着生または岩生する小型の常緑多年草。この属は南方系で、日本は分布の北限にあたる。県内では西部の渓谷沿いに少数の自生地が確認されている。佐伯区湯来町の大森八幡神社に自生があったが台風のため絶滅した。近隣には生育に適した環境が多くあるので再発見が望まれる。



種子植物

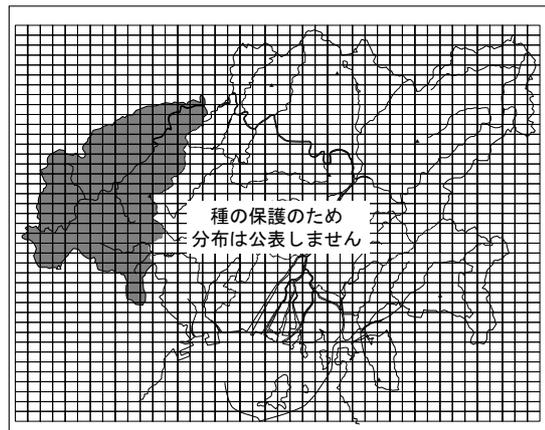
広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■キンセイラン（ラン科）

Calanthe nipponica

北海道、本州、四国、九州の深山に分布するエビネの仲間で、6～7月に淡黄緑色の花をまばらにつける。日本特産の貴重な希産種。広島県では特にまれで、中間温帯林に生える。市内でも生育が確認されているが株数は少なく、採取による絶滅の危険性が高い。



種子植物

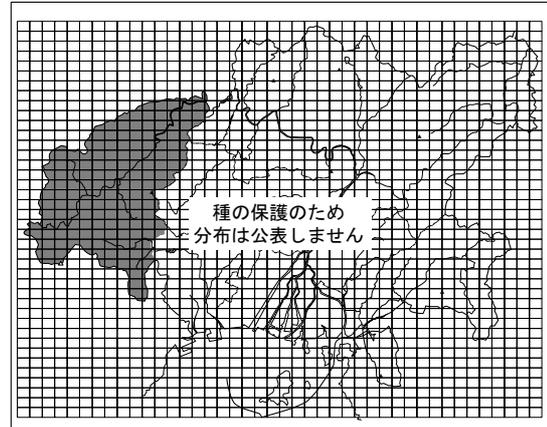
広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■サルメンエビネ (ラン科)

Calanthe tricarinata

ブナ帯の自然度の高い森林下に生える常緑の多年草。北海道、本州、四国、九州、台湾、ヒマラヤに分布する。広島県ではブナ林やブナ帯にあるスギ植林内に生える。市内の山林内で少数の生育が確認された。比較的沿岸部に近い広島市域内での自生は貴重な存在である。



種子植物

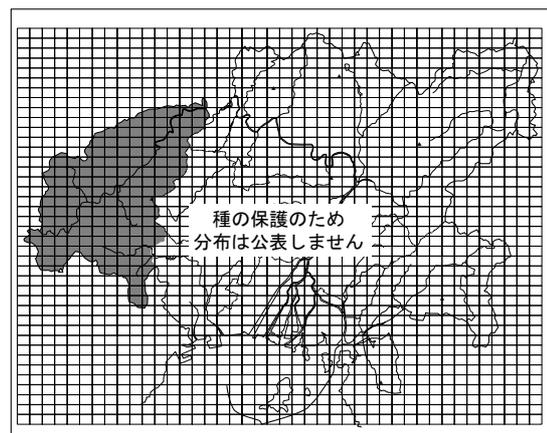
広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■マツラン (ラン科)

Saccolabium matsuran

常緑広葉樹林内などの樹木に着生する小型の常緑多年草。本州(宮城県以南の太平洋側)、四国、九州に分布する。全国的に確認例が減少しており、県内でも自生地が少なく絶滅の危機に瀕している。



種子植物

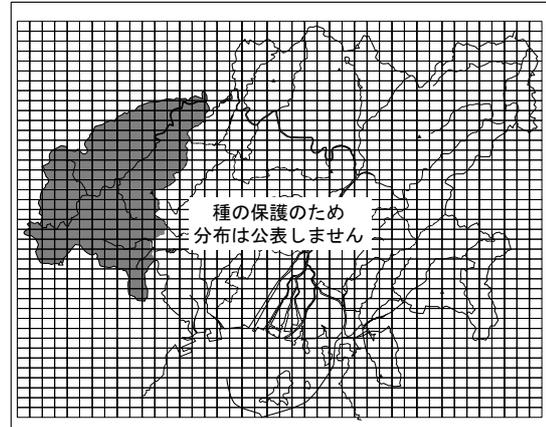
広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■トウゴクサバノオ（キンポウゲ科）

Dichocarpum trachyspermum

山の湿ったところに生育する小型の落葉性多年草。本州，四国，九州に分布し，広島県内では東部でわずかに確認されている。今回新たに発見された市内の自生地は地形的に不安定な立地のため消滅する危険性があるが，市域や県内のフロラを解明する上で貴重な存在である。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

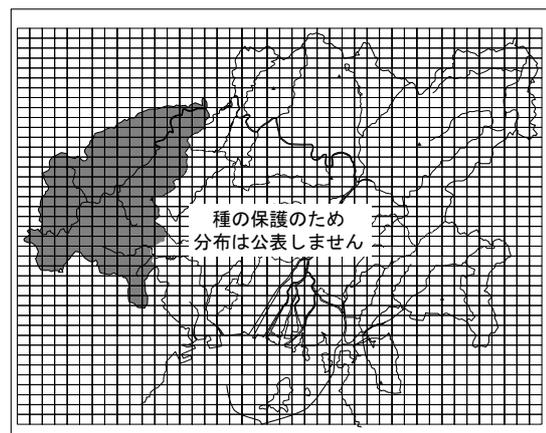
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■オオヤマサギソウ（ラン科）

Platanthera sachalinensis

南千島，樺太，北海道～九州に分布する落葉性の多年草。広島県内ではブナ帯域の落葉樹林下にはえるが，自生記録はまれで散発的である。

市内の高所で生育を確認したが個体数はごく少なく，採取や道沿いの管理作業などのために絶滅に瀕する危険性がある。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

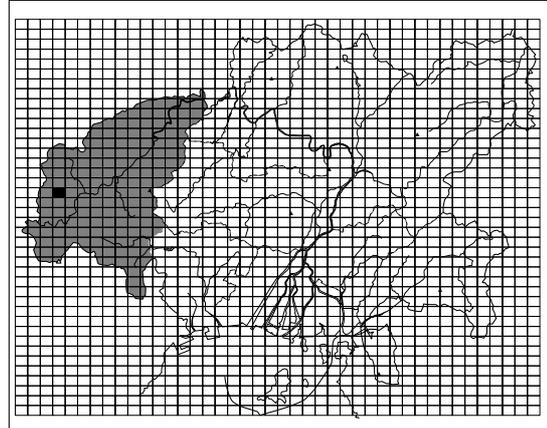
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ムヨウラン (ラン科)

Lecanorchis japonica

本州(東北地方南部以南)、四国、九州に分布する腐生ランで、淡黄色の花をつける。県内では中、東部のシラカシ林に生えることが多い。

県西部での自生は大変珍しく、本種の分布を解明する上で貴重な存在である。



種子植物

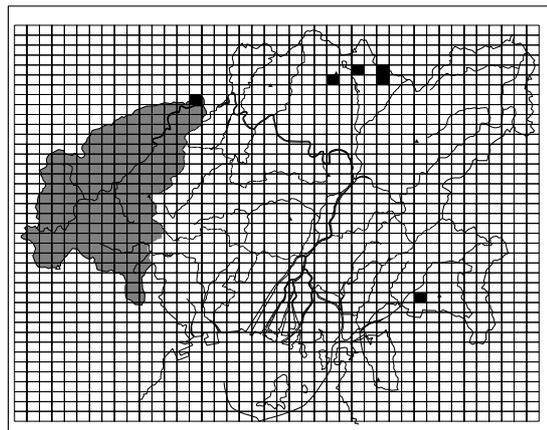
広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■マルミノヤマゴボウ (ヤマゴボウ科)

Phytolacca japonica

自然度の高い樹林下にまれに生える多年草。本州(関東地方以西)、四国、九州に分布する。市域では安佐北区、安芸区、佐伯区から記録がある。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

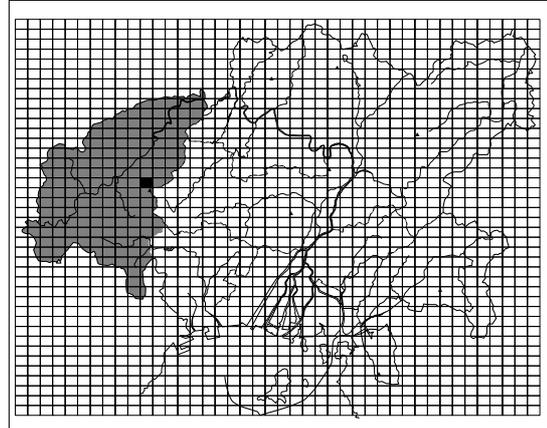
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■テツカエデ（カエデ科）

Acer nipponicum

主に温帯林内に生える落葉高木。日本固有で、岩手県以南の本州、四国、九州に分布する。広島県内では中国山地沿いの谷筋に極まれに生育するが、県内分布の全容が明らかになっているとはいえない。

佐伯区湯来町で極わずかの生育が確認されている。



種子植物

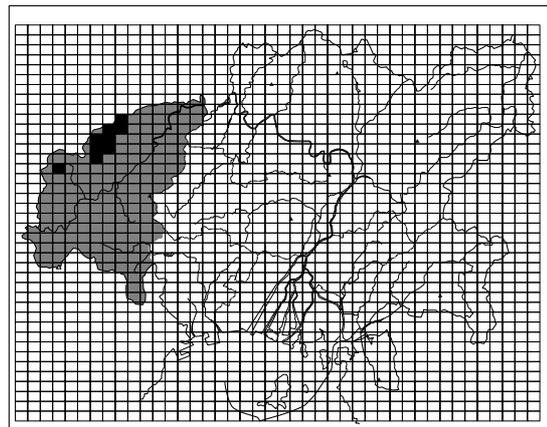
広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■コハクウンボク（エゴノキ科）

Styrax shiraianus

樹高3～5mの落葉小高木で、6月頃白い花を総状につける。本州（関東以西）、四国、九州、朝鮮半島南部に分布する。尾根筋や谷沿いの岩地に生えていることが多く、県内では今のところ、佐伯区湯来町を含む北西部でまれに見られるだけである。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

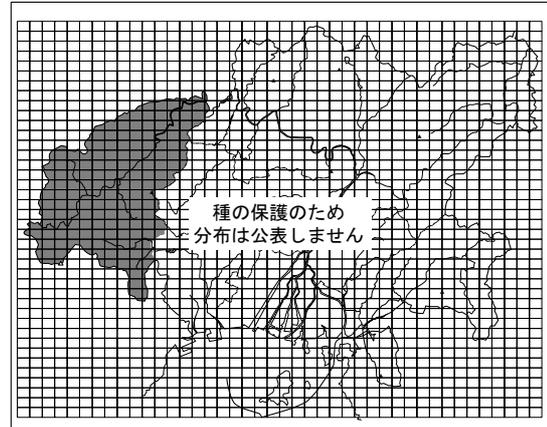
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ジャコウソウ（シソ科）

Chelonopsis moschata

山地の溪谷に生え、高さ1mに達する落葉性の多年草。北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では中国山地の谷間や、ブナ林の林縁などにまれに生える。

市西部で生育を確認した。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

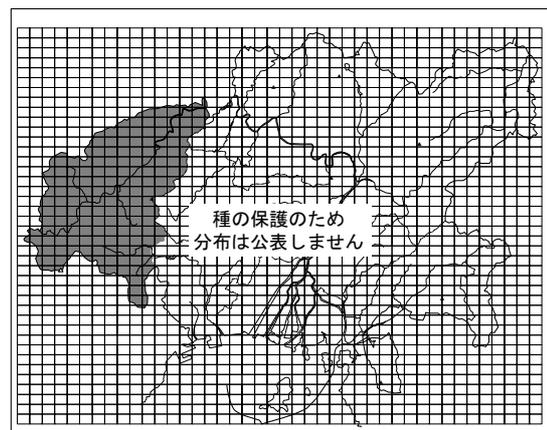
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■マネキグサ（シソ科）

Lamium ambiguum

山地の木陰に生える高さ40～70cmの多年草。本州(神奈川県以西)、四国、九州に分布する。県内では東部の石灰岩地域の溪谷中にまれに生える。

市内の2か所で記録があり、その内1か所で生育を確認した。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

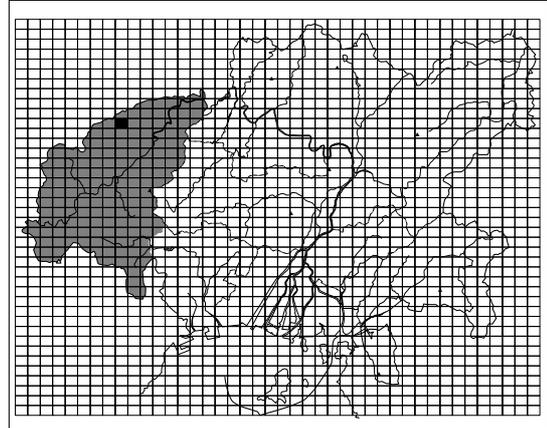
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■キヨスミウツボ (ハマウツボ科)

Phacellanthus tubiflorus

山地の陰湿な木陰に生える高さ5～10cmの寄生植物。北海道、本州、四国、九州、朝鮮、ウズベキスタン、樺太、中国(中北部、東北部)に分布する。広島県内では、中国山地沿いの地域に分布するが、きわめてまれである。

佐伯区湯来町で生育が確認されている。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

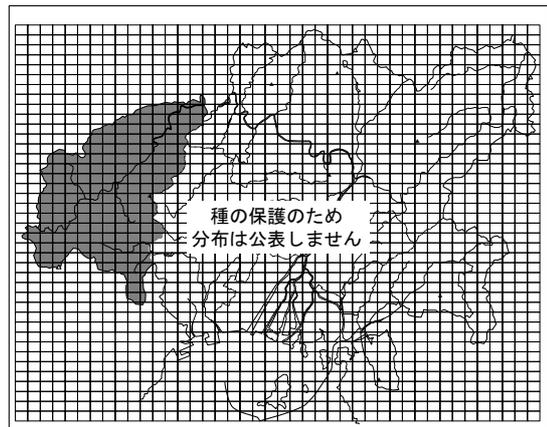
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■シロバナイナモリソウ (アカネ科)

Pseudopyxis heterophylla

山地の林中に生える多年草。夏に上向きの白色小花を数個つける。本州中部に分布するとされるが、1997年に芸北町で発見された。

今回市域内でも自生が確認されたが県内の分布についてはさらに調査する必要がある。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

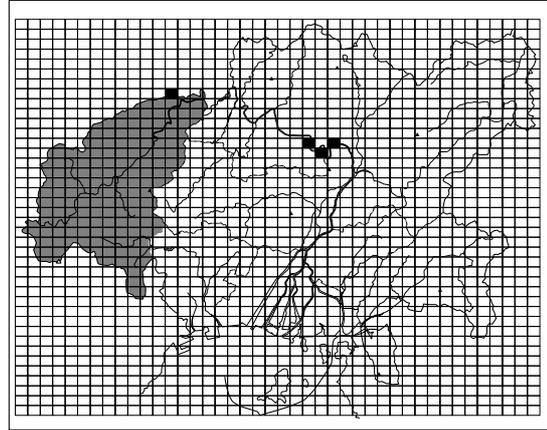
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■カワラハハコ (キク科)

Anaphalis margaritacea

川原の砂地などに群生する多年草。茎はよく枝分かれし、高さが30～50cmになる。北海道、本州、四国、九州に分布する。広島県内の生育記録は各所にあるが、原状不明の場所が多い。

佐伯区湯来町の1か所で生育を確認しているが、河川の氾濫などにより生育場所が移動したり、生育量が変わるようである。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

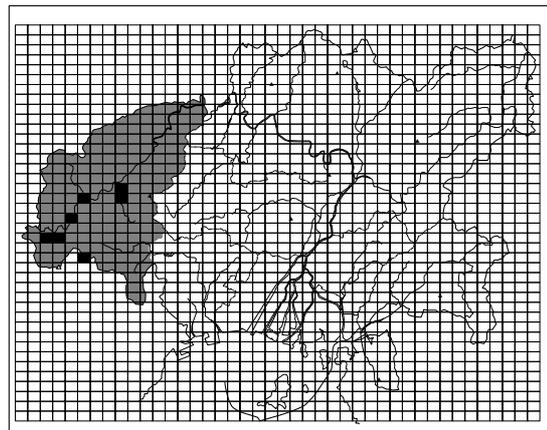
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

■サンベサワアザミ (キク科)

Cirsium tenuisquamatum

山地の小川沿いや水田畔などの水湿地に生える中型のアザミ。中国地方の特産で、広島県内では吉備高原面から中国山地にかけて分布する。

佐伯区湯来町の山間部にある水路沿いや水田周りの湿った場所に群生が見られる。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

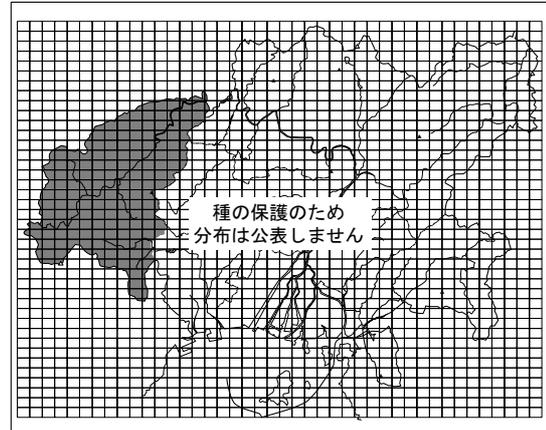
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■クマガイソウ（ラン科）

Cypripedium japonicum

林床に群生する落葉性の多年草。北海道(西南部)～九州に分布。高さ30～40cmで、大きな扇形の2葉と長径8cmほどの1花が特徴の代表的野生ラン。

安佐北区の1か所で記録されていたが、採取によって絶滅した。今回新たな自生地が発見されたが生育株は開花に至らないものがほとんどであった。適地の個体はことごとく採取され、残りがかろうじて生き残っているという深刻な状況である。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

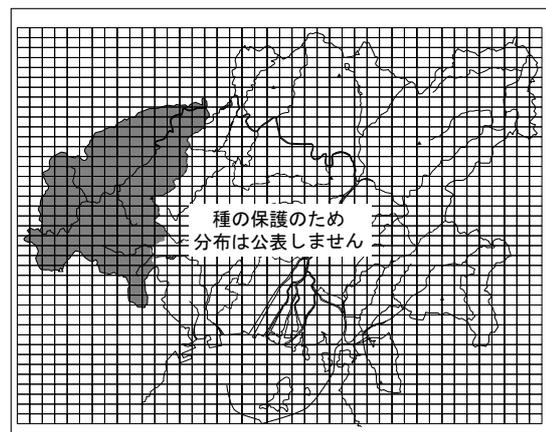
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ムギラン（ラン科）

Bulbophyllum inconspicuum

樹林内の樹上、岩上に生える常緑の多年草。本州(関東以西)、四国、九州に分布。卵形の偽球茎の先端に肉厚の葉を1枚つける。6～7月に短い花茎を出し、1個の花をつける。

1970年代に佐伯区湯来町から標本の記録があり、1987年には、安芸区、安佐北区で少数個体が記録されている。それ以後確実な情報は得られていないが、環境変化や採取圧により絶滅の危険性は非常に高いと推定される。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

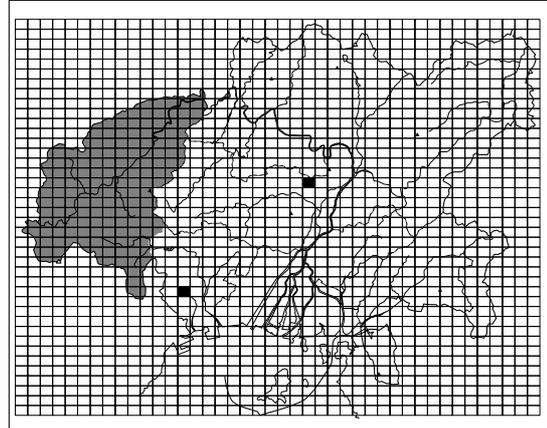
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■オキナグサ (キンポウゲ科)

Pulsatilla cernua

日当たりの良い草地や河原に生える多年草。本州，四国，九州に分布。植物全体に毛が多い。4～5月，10cm内外の花茎の先端に鐘形で暗紫色の花をつける。

安佐南区，西区，佐伯区(倉重，湯来町和田地区恵下)で記録されているが，近年生育が確認されていない。放牧や草刈りなど人為的な管理下で生育環境が維持されることが多いが，管理放棄による生育適地の減少や採取により絶滅の危険性が高い。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

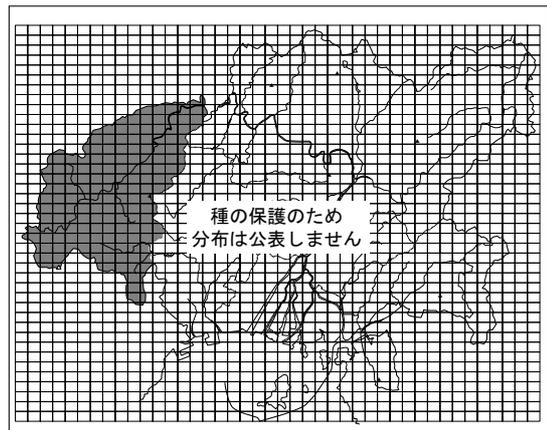
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ホンシャクナゲ (ツツジ科)

Rhododendron japonoheptamerum var. *hondoense*

酸性土壌の溪谷に生える常緑低木。本州(愛知県，長野県，富山県以西)，四国に分布。高さ4m，太いものは直径12cmほどになる。5月ごろ，枝先に赤紫～白色の花を多数横向きに咲かせる。

市内各地で記録されているが，掘り取りのため著しく減少している。さらに，自然実生による幼株が採取されているとみられ，今後の生育には危機的な状況と言わざるを得ない。



種子植物

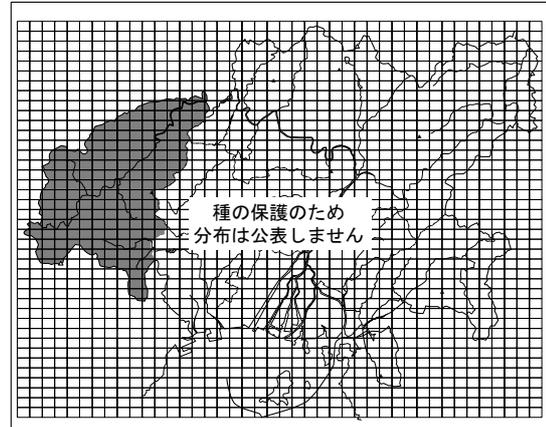
広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ノハナショウブ（アヤメ科）

Iris ensata var. *spontanea*

岩手，三重，鹿児島などでは群生地が天然記念物に指定されているところもある。広島市内には本種の生育に適した環境が少ないため自生株数が非常に少ない。園芸植物のハナショウブは，本種を鑑賞植物として江戸時代から改良したものである。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

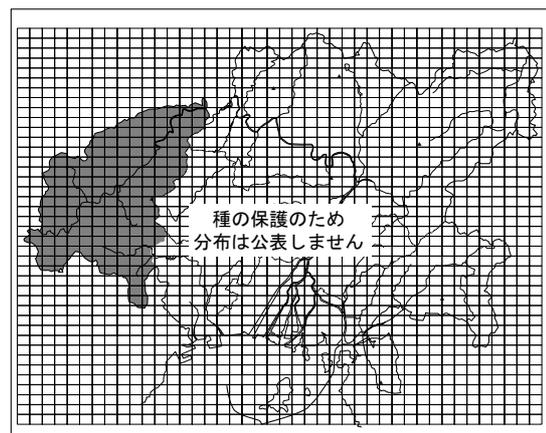
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■キンラン（ラン科）

Cephalanthera falcata

山稜や丘陵の明るい疎林下に生える落葉性の多年草。本州，四国，九州に分布。高さ30～50 cmで，4～6月にかけて，茎の先端に黄色い花を3～12個つける。

安佐南区，佐伯区で記録されているが，今回の調査では確認できなかった。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

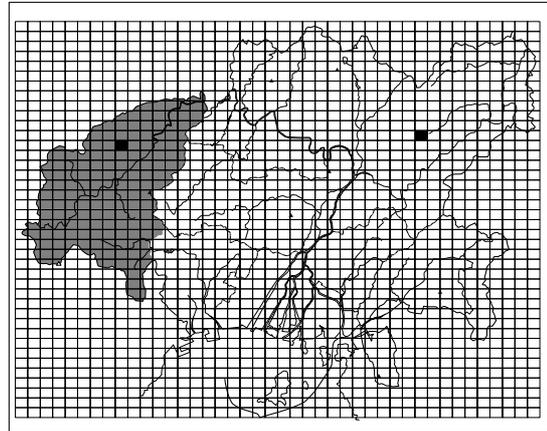
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ヤマヒョウタンボク（スイカズラ科）

Lonicera mochidzukiana var. *nomurana*

山地に生える落葉低木。本州(東海道以西)、四国、九州に分布し、しばしば蛇紋岩地帯や石灰岩地帯に生育。高さ1mくらい。5月に白色の花を2個ずつつける。果実は6~7月に赤く熟する。

安佐北区と佐伯区で記録されているが、現状は不明。自生地は開発の及ぶような場所ではないが、個体数が少なく生育基盤は脆弱。県内他所でも同様な状況である。



種子植物

絶滅・絶滅

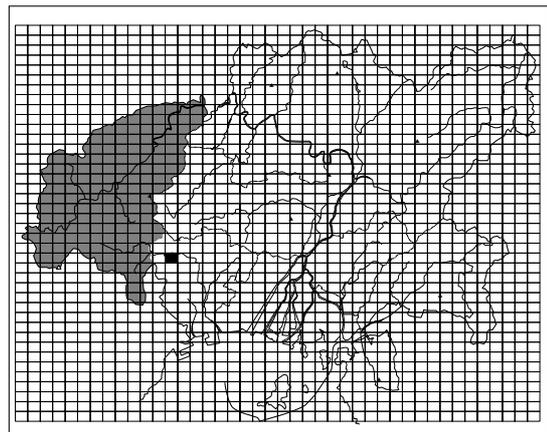
10年~20年間確認されていない(種子植物では30年以上)

■ハナナズナ（アブラナ科）

Berteroella maximowiczii

平地に生える越年草。本州(広島県、岡山県)、九州(対馬)、朝鮮半島、中国に分布。全体に星状毛があり、茎は高さ20~60cm、上部でよく枝分かれする。花は5~10月、花弁は4枚で淡紅色。

戦前には西区(己斐)、安佐南区(祇園、沼田)、佐伯区(石内、河内、湯来町和田地区恵下)から記録があるが、市域では戦後確認された記録がない。県内では戦後三段峡から採取されたが、現状は不明である。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

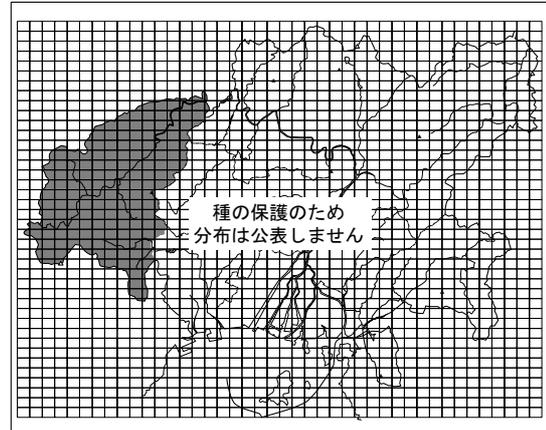
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■オモゴウテンナンショウ（サトイモ科）

Arisaema iyoanum

溪流沿いの斜面など、山地の木陰に生育する多年草。中国地方西部と四国地方に分布する。マムシグサに似るが葉は1枚、裂片は7～11枚。花の苞は淡緑色または帯紫色に茶褐色の点があり、尾状に伸びる部分(舷部)の縁が外曲する。

安佐北区や佐伯区湯来町で生育が確認されている。林道工事などの開発や採取が減少要因となる。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

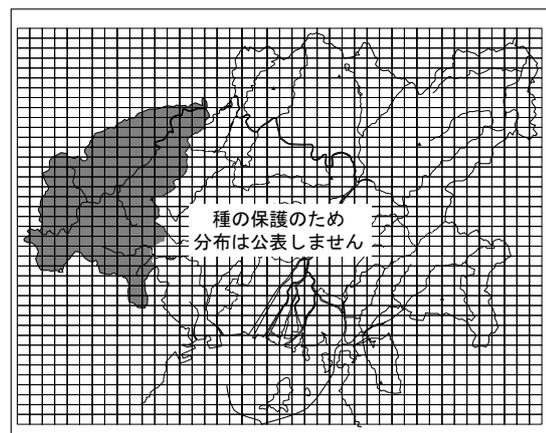
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ホソバナコバイモ（ユリ科）

Fritillaria amabilis

林縁などに生える多年草。県内の自生地は中・古生層の地域に限られる。本州(中国地方)、四国、九州に分布。高さ5～15cmで、3～4月ごろ輪生した葉の先に筒型の花を咲かせる。

安佐北区の4か所、佐伯区湯来町の1か所で記録されている。森林の成長に伴って消滅しそうな所や、道路の改修で個体数が減っている所がある。また、栽培目的の採取も減少要因となっている。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

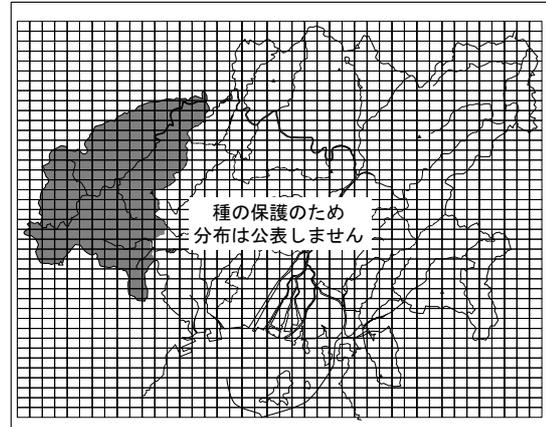
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ウチョウラン (ラン科)

Orchis graminifolia

岩壁上に生える多年草。本州，四国，九州に分布。草丈は10～20cm。6～8月に，茎の先に淡い紅紫色の花を数個つける。

佐伯区で記録されている。以前に比べ生育数が激減しているほか，場所によっては近年の詳細な状況は不明である。生育適地が限定され，移植による保全は困難な上に採取圧が高い。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

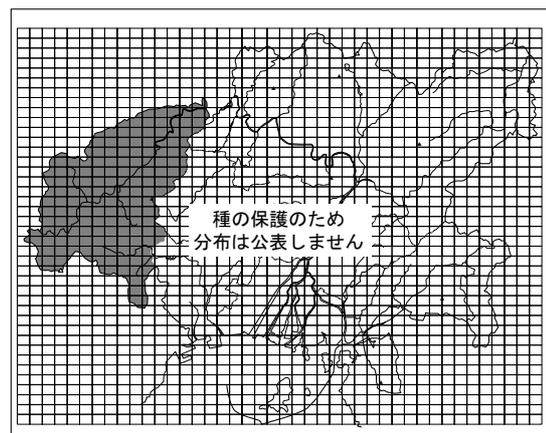
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ヒナラン (ラン科)

Amitostigma gracile

樹林下の明るい岩上に生える多年草。本州(愛知県以西)，四国，九州に分布。茎はやや斜めに立ち，高さ5～15cm。6月ごろ淡紫色の小さな花をつける。

安佐北区や佐伯区の数か所で記録されており，最近10年間に徐々に減少している。原因としては，採取と崩落防止工事があげられる。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

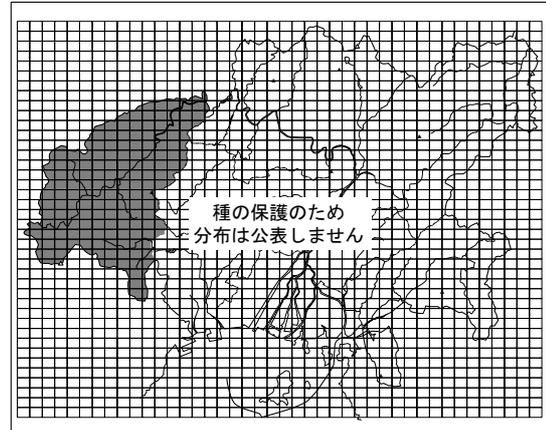
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ヤマシャクヤク（キンポウゲ科）

Paeonia japonica

落葉樹林下に生える落葉性の多年草。本州（関東，中部地方以西），四国，九州に分布。茎の高さは30～40cmで，5月ごろ茎頂に大きさ4～5cmの白色花を1個つける。

安佐北区，安佐南区，佐伯区の数か所で記録されている。生育環境は良好なのに個体数が少ないままであり，採取圧がかかっていると思われる。



種子植物

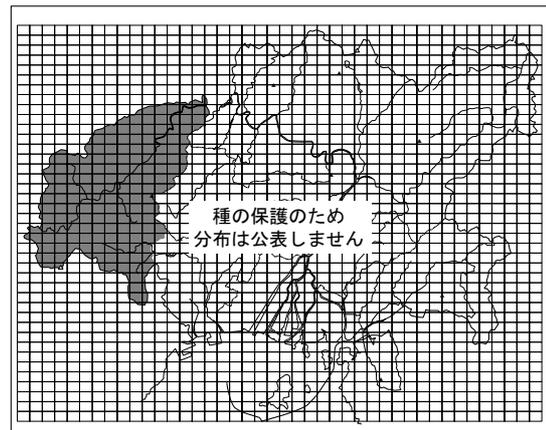
広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■フジバカマ（キク科）

Eupatrium japonicum

関東以西の日本及び朝鮮半島，中国大陸に分布し，河岸の湿った草地に生える多年草。広島県内では，太田川流域の広島市安佐北区，佐伯区，安芸太田町など，芦田川流域の神辺町などからの報告があるが，その自生状況は年によって確認できないこともあり，安定しないようである。



種子植物

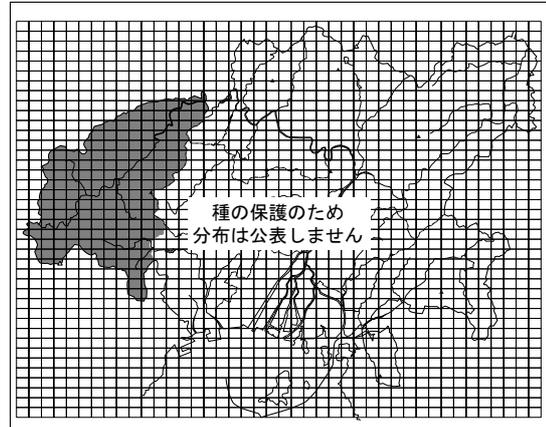
広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■キバナノアマナ（ユリ科）

Gagea lutea

葉は1枚，早春に黄色い花を数個つけ，初夏には地上部がない。北海道，本州，四国に分布するが本州の西部や四国ではまれ。県内でも三次盆地以南にはきわめて少なく，広島市は県内での南限にあたる。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

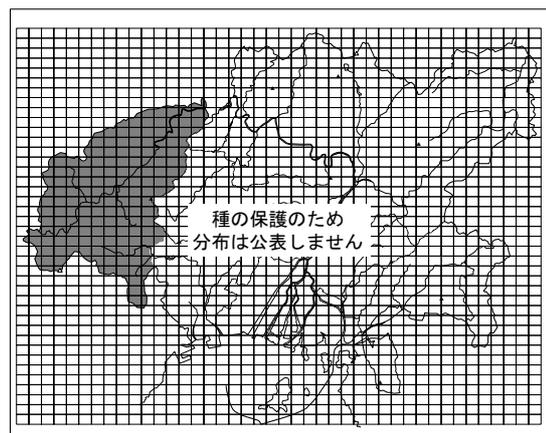
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■カタクリ（ユリ科）

Erythronium japonicum

落葉樹林下で早春に花をつける多年草。北海道～九州に分布。葉は2枚で花茎の下部につく。花は4月上旬，紅紫色で基部に斑紋がある。

安佐北区の4か所，佐伯区の3か所で確認されている。斜面下部で耕作地と山林との境界や道路のノリ面に10数株から100株前後が生育している。安佐北区の1地点では，道路により多くが削り取られた。また，里山利用が行われず，生育環境が悪化している場所もある。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

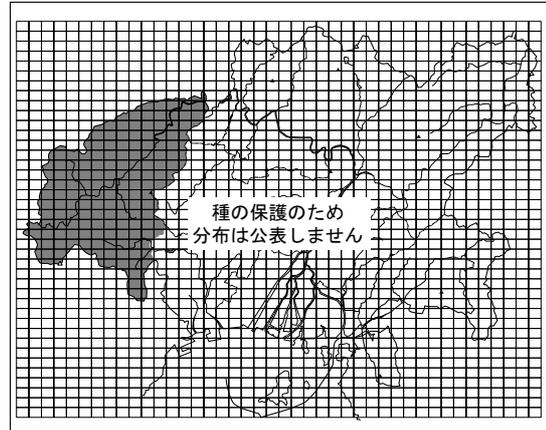
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■エビネ（ラン科）

Calanthe discolor

樹林下に生える常緑の多年草。北海道南部～沖縄に分布。草丈約30cm，葉を数枚つけ，中央より花茎を直立させ花を房状につける。

安芸区，安佐北区，安佐南区，東区，佐伯区で記録されている。場所によっては数十株が群生しているところもあるが，かなり少なくなっている自生地も多い。少なくとも2地点は，開発などで消失した。採取圧も高い。人工増殖株による再生を行う場合，地域個体群の特性を考慮することと，ウィルス罹病株^{りびょう}を植え出さないよう配慮することが特に重要である。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

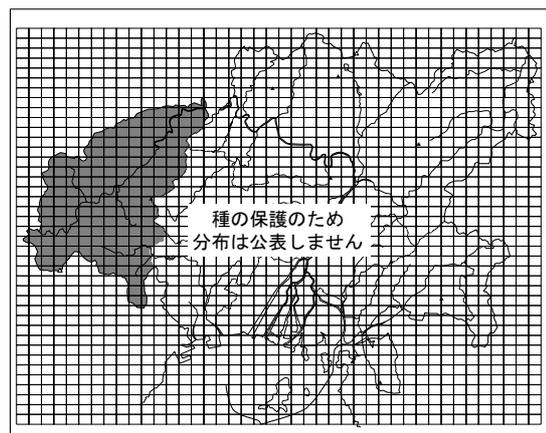
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ナツエビネ（ラン科）

Calanthe reflexa

山地のやや湿った樹林下に生える多年草。本州～九州に分布。7～8月ごろ，高さ20～30cmの花茎の先端部に7～15個の淡紫色の花を咲かせる。

安佐北区，安佐南区，佐伯区で記録があり，数か所で生育を確認した。空中湿度が高く排水の良い所を好み，暑さに弱いため，人工的な継続栽培や増殖は困難。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

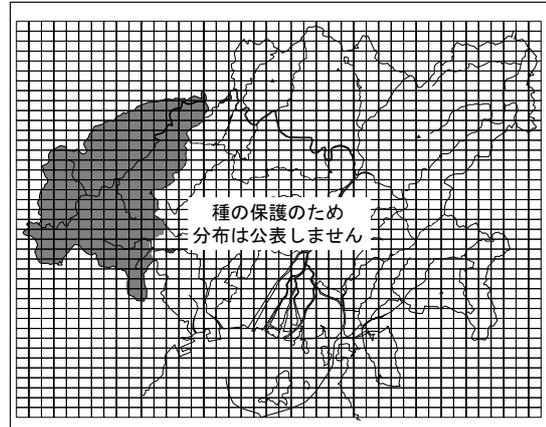
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■セッコク（ラン科）

Dendrobium moniliforme

常緑樹林内の樹上や岩上に生える常緑の多年草。本州～沖縄に分布。茎の高さは5～25cm，花は5～6月，大きさは約3cmで白または薄紅色。

安佐北区の数地点及び佐伯区で記録されている。生育適地は比較的多いが，採取圧が高いため，開花・結実に至る株が少ない。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

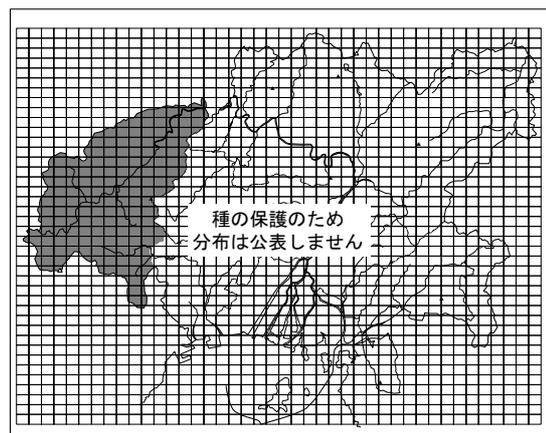
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■マメツタラン（ラン科）

Bulbophyllum drymoglossum

山地の樹幹や岩上に生育する常緑の多年草。本州（関東以西）～沖縄に分布。茎は細長く横にはう。花は5～6月に先端に1個つく。花の大きさは1cm，三角形で黄褐色。

安佐北区と佐伯区で記録されている。生育個体は少ないが，近年大きな変化はないようである。



種子植物

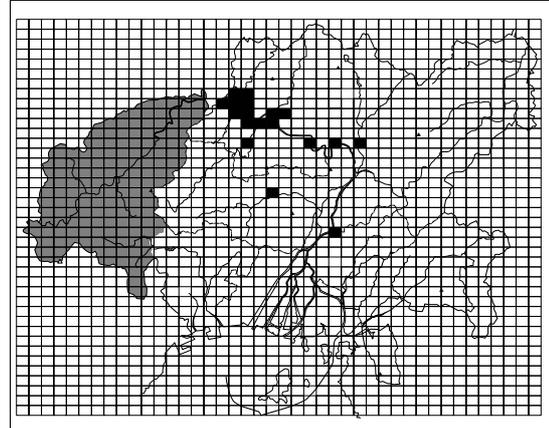
広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ユキヤナギ（バラ科）

Spiraea thunbergii

本州（関東以西）、九州、中国中西部に分布し、川岸の岩の裂け目や山中の岩礫地に生える落葉低木。しばしば庭園にも植栽される。県内では太田川と呉市広大川に自生がある。佐伯区湯来町の水内川流域からも生育の記録があるが、現状は不明。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

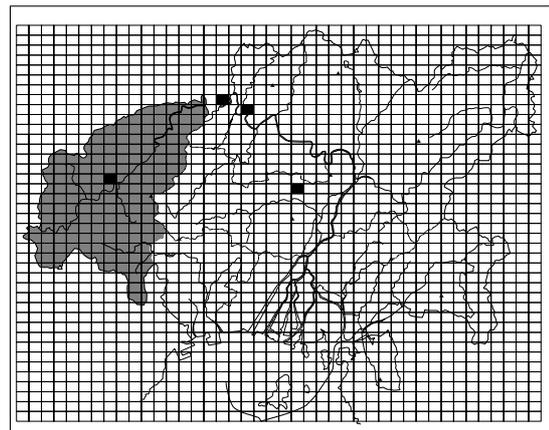
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ツゲ（ツゲ科）

Buxus microphylla var. *japonica*

増水時には水に洗われるような川岸の岩の割れ目などに生える常緑低木。本州（関東から西）、四国、九州に分布。幹は直立し、高さ1～3m。春に淡黄色の花をつける。

安佐北区の太田川河川敷で記録があるほか、佐伯区湯来町の水内川支流の岩場で生育を確認した。数は少なく生育基盤は弱い。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

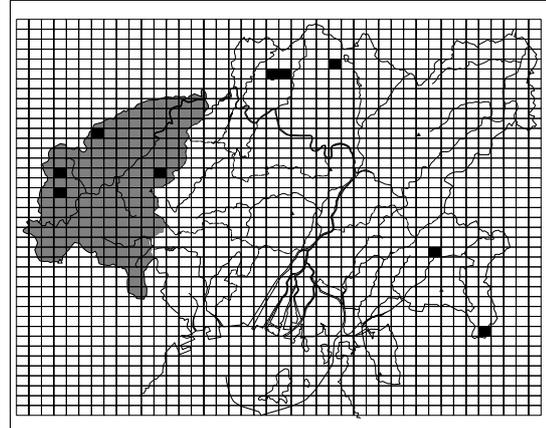
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ナツアサドリ (グミ科)

Elaeagnus yoshinoi

山地に生える落葉低木。本州(兵庫県, 岡山県, 広島県, 山口県), 四国(愛媛県)に分布。樹高は2~5m。花は5月上旬。

安芸区で2か所, 安佐北区で3か所記録があるほか, 佐伯区湯来町の4か所で生育を確認した。いずれの場所も1株しかなく, 開発などで消滅する危険性がある。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

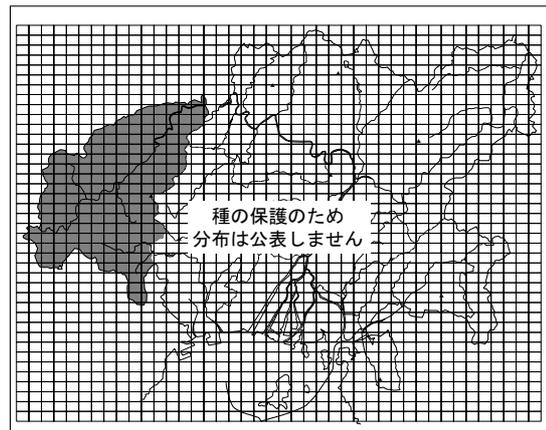
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ゲンカイツツジ (ツツジ科)

Rhododendron mucronatum var. *ciliatum*

花崗岩かこうがんの岩峰や岩壁に生える落葉低木。中国地方, 四国北部, 九州北部に分布。花は, 3~4月に葉に先立って開き, 径3~4cmで赤紫色。

安佐北区, 安芸区, 南区などにみられ, 現状に大きな変化はない。また, 佐伯区湯来町では岩尾根に比較的多数の株が生育している。登山道や林道の整備が減少要因となる。採取圧もある。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

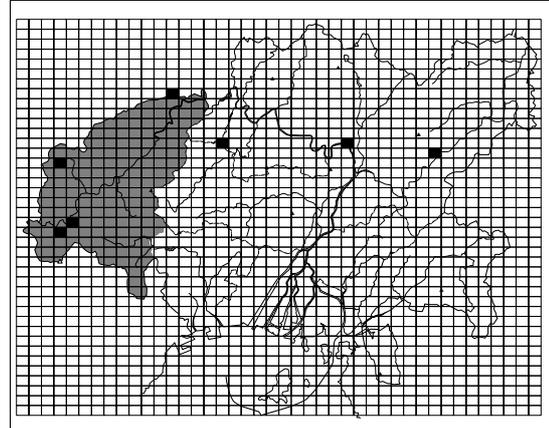
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

■ナガミノツルキケマン（ケシ科）

Corydalis raddeana

山中の半日陰地や林縁に生える一年草または二年草。北海道，本州，九州に分布。茎は分枝して長さ1mに達し，横に広がる。花は淡黄色で8～9月に咲く。

安佐北区，安佐南区，佐伯区湯来町に生育している。一部の自生地は河川改修などによりなくなったと思われるが，ほかは安定している。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

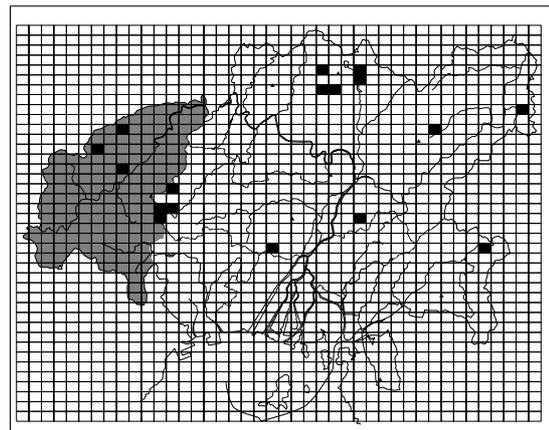
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

■アテツマンサク（マンサク科）

Hamamelis japonica var. *bitchuensis*

溪谷に多い落葉小高木。本州(中国地方)，四国に分布。花は早春に葉に先立って開き，花弁は黄色で長さ12～15mm。マンサクに比べ，葉の両面の星状毛が多い。

安佐北区，安佐南区，佐伯区湯来町などに広く分布。山地の溪谷などに生育しており，存続基盤は安定している。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

■キキョウ（キキョウ科）

Platycodon grandiflorum

日当たりの良い山地の草地や路傍などに生える多年草。日本全土に分布。茎は高さ40～100 cm。8～9月ごろ、青紫色の鐘形の花をつける。

安佐北区，佐伯区，東区，南区で記録されている。安佐南区，安芸区にも自生している可能性がある。

